

令和6年度 3回家庭教育ファシリテーター養成講座 開催報告

日時 令和6年11月26日(火)14:00～16:30

会場 滋賀県庁東館7階大会議室

参加人数 32名（会場16名、オンライン16名）

内容 ○情報提供:「不登校を考える」

○演習①:「ファシリテーター役となり、話し合いを進めよう！」

○演習②:「自分たちの持ち場でどのような講座やサロンができるか考えよう！」



当日の様子

【 情報提供 】



【 演習① ファシリテーター実習 】



【 演習② 全体交流(オンライン) 】



【 演習② 全体交流(会場) 】



【参加者の感想より】

1. 情報提供について

- ・滋賀県の不登校の現状が知れてよかったです。
- ・不登校の理由はいろいろあり、対策もそれぞれに合わせていけないと思いました。
- ・地域とのつながり、子どもを支える団体のつながり、行政とのつながりが大切だと思いました。
- ・不登校になった時に、助けてと言える場所、良い場所(居場所)ができたらいいなと思います。

2. 演習について

- ・様々な世代、活動されている方々とお話をして、新しい知識を知ることができました。居場所づくりについての課題や必要性について深く議論をすることができました。
- ・多方面で御活躍されている方のお話を聞けました。支援で大切なのは、共通理解やつながりだと実感したので、この講座は出会いの場でもありました。
- ・4人の人数も話しやすく、聞きやすいと思いました。いろいろな人との関わりができてよかったです。いじめの対応をされている先生や民生委員、学生など、様々な立場や想いを聞けてよかったです。
- ・ファシリテーターは何をすべきか、共にどのように進めていくのかがわかりやすかったので、全員がスムーズに進行できて楽しく話し合うことができました。全員が同じように意見してコミュニケーションをとるために、様々な場面で工夫が必要で、まとめの言葉も大切だと思いました。
- ・「不登校」についてたくさんの考え方をいただきました。目からウロコでした。固定観念(学校には必ず行かなくてはいけない、学力が落ちる等)にとらわれず、地域がらみでみんなで偏見をなくしていくことが大切だと、勉強することができてよかったです。
- ・地域で実際に子ども勉強会や親の交流会を主宰しておられる方が多かったため、不登校の話題にしても、いわゆる「犯人探し」的な流れにはならず、「どう工夫していくか」「どう取り組んでいくべきか」など主体的で前向きな姿勢での話し合いになりました。時代が変わって、「学校」の存在意義も変化する中ではありますが、地域からバックアップしていこうというエネルギーを感じることができて、大変有意義に思えました。

3. 今後について

- ・アイスブレイクは楽しいです。難しい講座(内容)の時こそアイスブレイクで楽しくやっていきたいです。
- ・自分たちの地域でこれから何ができるか、地域の人たちと共に考えていきたいです。
- ・学校行事のタイミングに合わせた親の集まりや、少人数の「〇〇の会」を、規模やルール等、決まりごとにしばられずに始めようと思いました。
- ・子どもにとって居場所があることは、今まで以上に必要だなと感じました。自分が教師になった時、そのよりどころとなれる存在になることを目標にしていきたいと思いました。
- ・いろいろな経験、活動をされている方々に話を聞くことができて、すごく参考になりましたし、自分の今後の心がけが変わるきっかけになりました。今日の学びを生かし、自分にできることを可能な限り取り組んでいきたいと思いました。
- ・3回の講座を経験させていただき、初対面の方々とのいきなりの話し合いから、各担当での司会、まとめなど、回を追うごとに、怖さが減っていくのを感じています。磨き続けないとすぐに鈍ってしまいそうなので、怠けずに活用していきたいと思います。
- ・自分たちの持ち場でどのようなことを考えているか、また、実際に今やっていること等を理解してもらいながら、今後やりたいこと、夢や希望をもってできること、本当にワクワクしながらつながりを感じられること等をやっていきたいです。
- ・例えば今後、「コーディネート」する立場として貢献しようと思っても、地域の活動状況を俯瞰してとらえていることが必要になることが分かりました。そのため、教育だけでなく、福祉的な組織や有志の会のような組織がどこにどのように存在しているかを把握しておくことが必要だと考えました。自分が組織を立ち上げている未来を想像することは今のところできませんが、周辺の一員として関わりを持つことには改めて興味が出てきました。